

令和3年度 事業計画

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

昨年来の新型コロナウイルスの影響により、暮らしが変わってきている。この変化は感染症予防への対応というだけでなく、この災禍を契機として、より豊かな新しい未来の暮らしへの胎動とも読み取れる。より幸福な新しい社会や暮らしを実現するために、ランドスケープの技術やランドスケープからの発想による成果を社会に訴求し、そのための具体的な行動が求められている。

一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会（以下、CLAという。）は関連団体との連携の強化や、仕事の質の向上を図りながら、私たちの職能の持つ可能性を社会に発信し、みどりの総合コンサルタントとしての社会への貢献をより高めていく。

(1) 社会への訴求と発信

より幸福な新しい社会や暮らしを実現するために、ランドスケープの技術や発想による取組みが有効であることを、より積極的にアピールする。

(2) 関連団体との連携の強化

関連団体等との意見交換・情報共有・人的交流をより一層進める。また、総合的な職能である強みを活かし、みどりによる社会貢献への道筋を示す。

(3) 質の向上

社会への訴求と発信を効果的に実施するため、個々の技術研鑽を進めるだけでなく、業界としての取組みや成果を確実なものとして、アピールする。

1. 総務委員会

(1) 質的向上への具体的取り組み

① 会員活用の推進

当協会の会員の多くが携わる、公共事業に関わる調査・計画・設計・監理・管理等の業務において、当協会が有する人的資源を行政機関（発注者）等により一層活用していただくための策について検討を行う。

② 事務局体制の見直し

会員サービスの向上と、当協会が社会に対し訴求力を高めるための取組について、「質的向上」を目指した事務局体制の見直しを行う。

③ 会員企業への経営支援

近年多く行われている法改正（例えば労務関係や受発注に関わること等）の理解、経営リスクの低減（例えばハラスメント防止、設計瑕疵、著作権等）、その他企業の経営に際して共通して必要になる事項（例えば新型コロナウイルス

感染拡大防止等)をテーマにしたセミナー等を企画する。

(2) 関連団体との協働

「造園・環境緑化産業振興会」、「知的生産者の公共調達に関する法整備連絡協議会」等の関連団体との連携・協働を進める。

2. 国際委員会

(1) R L Aの国際相互認証の検討

R L A資格制度運営委員会、J L A U等関連団体と連携し、R L Aの国際相互認証に関わることについての検討・調整など必要なことを実施する。

(2) 国際的な設計基準の把握

会員が海外の業務を行う際のサービス内容や標準的なフィー等の「世界標準」等を把握し、「世界標準」に近づけるために必要な基礎的事項等の検討を行う。

(3) 国際的イベント等への協力

総務委員会との連携により、I F L A-A P R大会等の国際的イベントへの協力を行う。

3. 業務委員会

(1) 発注機関への会員活用の働きかけ

報酬積算ガイドライン、会員名簿、C L A journal等のさまざまなツールを用い、発注機関にランドスケープコンサルタント業務が専門であるC L A会員をアピールするとともに、業務受注が拡張されるような活動を行う。

(2) 「2021 年度版 ランドスケープコンサルタント業務における標準業務・報酬積算ガイドライン」の発行・検討

本資料は、ランドスケープコンサルタント業務の積算について現在多くの発注機関に活用されており、認知度もあがってきている。公表されている技術者単価についても昨年に引き続き、掲載し発行する。

また、「Park-P F I」、「都市公園安心・安全対策に関する調査・計画ー公園施設長寿命化計画と公園再生計画ー標準業務仕様書・標準業務報酬積算ガイドライン」、「緑の基本計画」等について、改善等の検討を行う。

(3) C L A白書(年次報告書)の作成

会員の現状を正確に把握し広報するため、会員から提出された経営状況や業務内容等のデータ整理を行い、「C L A白書 2020 年度版」を発行する。

なお、本年度は外部へ発信できるような白書として取りまとめる。

(4) セミナーの開催

会員向けセミナーとして、働き方改革、若手・外国人・女性等の技術者確保や育成等に係るセミナーの開催を引き続き検討する。

4. 技術委員会

(1) ビジョンセミナーの開催

協会の今後の活動に関わるテーマや社会的動向を踏まえた内容のセミナーを開催する。前年度から引き続き、「新しい生活様式」や「ニューノーマル」に対応するみどりのあり方・公園の利活用などを題材にして、ランドスケープの技術を再認識することに着目した企画を行う。セミナーはWebにより、正会員・賛助会員等に広く配信してCPD単位取得を支援する。

また、若手を中心とする事業・設計・施工・管理などの多様な立場の技術者が交流を行いながら研鑽を積むセミナーを開催する。

(2) 技術セミナーの開催

協会の活動を支援して頂いている賛助会員を中心とした、各方面の多様な造園技術を会員などに広く伝えるセミナーを開催する。

(3) CLA賞の運営と連携の推進

前年度の検討を踏まえてCLA賞の事業を運営し、関連団体との連携による発表の場を設ける取組みの推進と、CLA賞を若い世代にも引き続きPRするために、多くの会員の参加及び学生等の参加を促進する発表会とWeb配信を検討し実施する。

(4) 関連団体等との連携

関連団体との協働及び他委員会、支部等と協力しながら、前述の研修・講習等のセミナーの企画・運営を行う。

(5) Web配信の充実

各セミナーでは、支部や関連団体と連携しながらWebの活用方法を検討し、より多くの参加や参加者の交流を図るなど、Web配信の更なる充実を図る。

5. RLA資格制度運営委員会

(1) RLA資格制度の適正かつ円滑なマネジメントの推進

RLA資格制度は、重要事項を審議する総合管理委員会をはじめ、試験問題の作成や試験の実施・解答の採点・合否判定等に関わる多くの委員会・分科会で構成されるため、制度のより適正かつ円滑なマネジメントの推進に向けて、RLA資格制度運営委員会の機能強化を図る。

資格認定試験については、RLAが国の認定資格であることを踏まえ、一定以上の知識・技術・能力の水準を持つ者を適正に評価できる問題を作成し、試験を実施する。

(2) RLA資格制度の普及と資格保有者の増大

RLA資格制度の普及や資格保有者の有効活用に向けて、行政機関・企業・大学での説明会やパンフレットの配布等のPR活動を積極的に展開する。合わせて、

R L A及びR L A補の受験者・資格保有者の増大と、ランドスケープアーキテクトの社会的地位の向上につながる取り組みを行う。

(3) 関連団体との連携

J L A Uをはじめ関連団体と連携して、R L A資格認定試験の受験対策セミナーを開催する他、R L A資格の国際相互承認に向けた取り組みを推進する。

(4) 造園C P D制度の普及啓発

R L A資格の登録更新要件としている造園C P D制度について、資格保有者への浸透を図るためのセミナーを開催し、その普及に努める。

6. 広報委員会

協会の知名度・認知度の向上と、会員の仕事の創出や業務領域の拡大、会員相互の交流や支部との連携を図ることを目標に、以下の事業を進める。

(1) 広報誌「C L A journal」No.182の企画・発行

企画特集として、C L A賞受賞作品の紹介とともに、「(仮題) 拡大する領域とランドスケープコンサルタント」を特集する。

(2) ホームページの運営

各委員会の活動や情報及びランドスケープ経営研究会等の協会関連のさまざまな最新情報を迅速に伝えられるようホームページの充実に努め、必要に応じリニューアルを図る。

(3) 研修会・講習会開催の支援

技術委員会ならびに各支部と連携して、最新のランドスケープ視察や、「第2回ランドスケープフォーラム」を開催する。

(4) 支部広報活動の支援

各支部と連携し、支部活動の紹介や支部広報誌・ホームページの企画等により、支部広報活動を支援する。

7. 2025 大阪・関西万博特別委員会

「2025 年日本国際博覧会基本計画」について、関西支部と連動して、ランドスケープの立場から 2025 大阪・関西万博へ提案を行い、万博を成功へ導くことを目的に、関連団体や学識者とも連携しつつ活動する。

また、公益財団法人 2025 年日本国際博覧会協会が主催する「TEAM EXPO 2025」プログラムの一環である『共創パートナー』への参画可能性を検討する。

8. ランドスケープ経営研究会（略称：L B A）

少なくとも夏までは新型コロナの収束はありえないと思われ、かつての生活様式に完全には戻れないと想定される。そのような状況を見据え、前年度後半に試みた

Web を活用したフォーラムなど、新たな活動方式も積極的に取り入れ、前年度に行えなかった活動の実践や取り組み始めた自治体への働きかけ、大学・協会団体との連携・協力活動などを行う。その中で具体の成果につながる活動には、重点的に力を注いでいく。

また、そのような成果を示す場のほか、Web では難しかった交流の場を設けることや、会員相互のサロンの情報交換の場を設けるなど会員に目を向けたサービスを充実させる。

9. 支部活動

(1) 北海道支部

業務の健全な発展を図りつつ、社会に貢献する環境づくりを行うとともに、事業領域の拡充と次世代事業の創造を図り、広報活動を展開し、関係機関や関係団体との連携や支部連絡会議への参加を行う。

(2) 東北支部

復興事業 10 年間の検証と問題点への対応等や、東北地方の人口減少に伴う諸問題への対応等に関する提言を行って事業領域の拡大を図るとともに、関連団体との交流や協会発行の広報誌を活用した広報活動の展開、組織体制の確立等を通して支部の健全な発展と啓発を行う。

(3) 関東支部

地の利を活かして本部と連携を図るとともに、当支部の特色と役割を探求し、その実現を図るために、関係団体等との新たな連携構築を通じた支部活動の活性化に取り組み、これにより当支部を取り巻く社会要請の情報収集、並びに発注団体及び当支部会員への情報発信・情報提供を強化し、当支部会員及び賛助会員へのサービス向上に努める。

(4) 中部支部

発注機関を始め、関連団体との情報交換や交流を進め、連携を強化する。また、研修会や講演会を開催して、協会の広報を展開するとともに、会員の技術の向上、会員の増強、会員間の情報交換・交流・懇親等を図り、支部の活性化を図る。

(5) 関西支部

10 回目を迎える「みどりのまちづくり賞（大阪ランドスケープ賞）」を大阪府や（公財）国際花と緑の博覧会記念協会と共催しランドスケープの重要性を発信するとともに、「おおさか都市緑化フェア」や「街角サロン」、技術講習会等を開催し、広報誌「ランドスケープカンサイ」の発行等による広報活動、支部会員活用の要請等を行う。

(6) 九州支部

関連団体との交流・活動協力と、発注機関が主催する行事や調査研究等への参

加・協力を行う。また、「九州ランドスケープセミナー」や「福岡のランドスケープを頑張りたい人の同好会」の開催を行い、支部会員の交流とともに、広報活動を拡充する。